

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成27年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>しっかり食べ、しっかり出す、1日1回は笑う。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は宇和海が一望できる高台に位置している。敷地は広く、緑の木々を間近に見ながら利用者はゆっくり生活を送ることができる。運営推進会議に多種多様な方の参加があり、事業所や利用者の理解を得られ協力関係が築かれている。地域医療に貢献している医師が協力医となり24時間体制の対応がされ、家族が希望する看取りにも力を入れ利用者や家族の安心につながっている。交通の不便な地域のため防災意識を常に持ち、利用者の安全を守るよう職員全員で取り組んでいる。管理者の方針を職員はしっかりと理解し、職員全員で統一した考えのもとケアに臨んでいる。開設9年、地域に根ざした事業所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 北ウイング

記入者(管理者)

氏名

土居京子・中平智子

評価完了日

平成27年5月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を共有し、毎年スタッフ一人一人が目標をたて、初心にかえり実践している。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、職員全員で共有している。また、各ユニットで理念に沿った目標を立て、評価をしながらケアの実践につなげている。管理者は利用者に充実した日々を送ってほしいと願っており、職員に「利用者が生きた証を残すためには職員もプロとしての意識、責任を持ち、支援してほしい。」と伝えている。職員は、職員会などで言葉に出して確認し、意識向上に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>可能な限り、地元の行事に参加します。 祭り事や、保育所、小学校の児童さんに来ていただき交流をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 保育園児の訪問があり園児たちとのスキンシップで利用者の笑顔が生まれている。地元の小学校は合併して他の地区に移転したため今年から交流ができなくなったものの、調査日には中学生の体験学習の受け入れをしていた。祭りには神輿や五っ鹿おどりが訪れ、庭先で舞いを見ることが出来る。8月にある地区恒例の花火大会には、利用者全員で出掛ける予定である。花火当日は、地区住民が席の用意をしてくれる等協力関係が築かれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 今年、地区の徘徊者SOSネットワーク模擬訓練に参加し、協力できました。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 開設時より9年続けて参加の方をはじめ毎回、多職種の方においてホームのサービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者をはじめ家族、小学校校長、保育所所長、市議員、民生委員、老人クラブ会長、婦人会、市職員が毎回参加して開催されている。内容に応じ消防署、駐在所に呼びかけを行い、気持ちよく参加してもらっている。会議では事業所の報告、避難対策や訓練の説明、介護保険改正の説明等の他、さまざまな意見交換がされている。参加者の半数は事業所開設当初から参加しており、事業所の移り変わりを十分把握してくれている。話し合いの結果、昨年度消火栓の敷地内設置が実現した。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 推進会議には必ず参加してもらっているので、取り組みをしっかり伝えている。 又、市からの情報も細かく説明をいただく。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には市の職員が参加しており、年に一度は介護保険制度についての説明を行っている。また利用者について相談にのってもらう等、連携を深めている。苦情等があった場合にも、ありのままの実情や対応報告を行っている。昨年は、社会福祉協議会主催の徘徊ネットワーク模擬訓練が、地区で一年をかけて準備され100人規模で行われた。管理者もアドバイザーとして参加するなど、協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 取り組んでいますが、転倒防止の為家族了解のもと、鈴を付けさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 以前、体動が多く転落の危険がある利用者に対し、家族の同意を得て柵を使用したことがある。現在も不安のある利用者には職員全員で原因を考えながら対策に取り組んでいる。中には、家族が赤外線センサーを取り付けた例もあるが、職員はそれらをうまく活用しながら見守りを重視した支援にあたっている。言葉の拘束においても、地域（浜の言葉）の方言がきつくないよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 初めて利用される方があり、関係者の方と話しました。まだ、1回なので全員の理解は出来ていません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の交流会、推進会議、面会時等に何うようにしている。 (外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加した時や、面会時にも話し合いを持つことで、思いや意見を聞くよう努めている。また年1回家族交流会を開いている。遠方の家族には毎月、管理者が手紙で状況を伝えたり、電話等もこまめに行い、意見を聞くよう努めている。利用者や家族が、意見や要望を言いやすい関係が築かれている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会で話し合っている。 管理者、事務長が代表者に連絡する。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員は関係性が良く、職員は日頃より意見や提案を言い易い環境にある。以前、夕食を利用者と一緒にとっていないことが議題になり、職員からの提案を受けて管理者自らも改善するなど、管理者は職員の意見に耳を傾けている。待遇改善に関しても、職員の要望を会社の代表に伝えることで、厚生行事として会社合同の社内旅行が実現した。また、研修を推奨し、受講費の補助や一部資格手当を設けている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 努めています。 (休日、時間外、夜勤、資格手当等上がっている)</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員確保が厳しく、研修に参加できていません。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 今年度はできていません。</p>	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 努めてはいるが初期ではいくら情報があっても理解できない。毎日毎日の暮らしの中で、情報の共有、家族との連携が出来てこそ関係が得られる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴し、要望をうかがっています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 柔軟な対応が必要です。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族の思いに寄り添いながら思いを共有し本人を支えていけるよう努めています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の状態をこまめに報告、相談したり手紙で連絡し合って継続できる関係に努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の行事に参加してもらいます。 なじみのパーマ屋さんを利用しています。 推進委員さんも半分は開設時から参加で声掛けをよくしてもらっています。 (外部評価) 馴染みの床屋に行ったり、近所のスーパーに買い物に出掛けている。歌うのが好きな利用者はカラオケ大会に行ったり、同じ敷地内にあるデイサービスのカラオケに参加して楽しんでいる。地元ならではの盆踊り、お神楽、「潮ごり」の見物に毎年出かけ、懐かしい行事を思い出したり、受診の帰りに実家に立ち寄り知人と会って話すなど、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 散歩をしたり、レクバレーをしたり、一緒に唄ったりして仲良く過ごしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 前入所されて退所した方が最近亡くなられたがご家族が挨拶に来られました。はがきのやり取りもしています。他施設へ行かれた方には面会に行きます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の関わりの中で、会話、表情からその思いや、希望を把握するようにしています。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で声を掛け、利用者の希望や意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者は、表情や行動から汲み取ったり、家族から情報を得たりしながら思いを把握するよう努めている。服用している薬を余分に持たせてほしいなど、要望に応えられない場合もあるが、利用者と穏やかに話し合っ納得してもらうよう努力している。飲酒の好きな利用者は自室にウォータサーバーを置き、自由に飲酒を楽しんでおり、職員はそれを見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者、家族と話していく中で、出来る限り続けられるようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをしています。 一人ひとり声掛けし、顔色などチェックし、調子が悪いときはかかりつけの病院に受診介助しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会のごときケアプラン作成するのに話し合いをしています。ご家族の意見も聴き、記入している。変化があったらすぐにニーズの変更追加で、よりよく暮らす計画を立てています。	
			(外部評価) 初回は介護支援専門員である管理者が作成するが、以降は担当者を中心に定期的にモニタリングを行い、職員全員で話し合っ て計画の見直しをしている。利用者の状態が変化した時はその 都度臨機応変に対応している。管理者は、利用者の言葉を一言 でも記録に残したいと考えており、職員は利用者の言葉を大切に 受け止め、計画に反映できるよう努めている。	利用者本位の介護計画が作成されているが、モニタ リングも計画と同様大切なことである。定期的に担当 者が行うモニタリングを記録に残すことで、支援内容の 評価を職員が共有し、介護計画の見直しに生かすこと を期待したい。そうすることで、今以上に管理者や職 員の利用者を思う気持ちが反映できる介護計画になる と思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 限られた時間の中で、見守りをしながら1日1日を充実できる よう記録し、利用者さんの生きた証を残しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われ ない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外に出たい、買い物に行きたい、パーマをかけたい、等々その 時を大切にしています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 上記にあるような希望、ニーズに繋がる地元のお店、関係のあ る方々とのつながりを大事にしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 看取りサービスを提携しているので、かかりつけ医家族との連携を密に行っています。	
			(外部評価) 地元の地域医療に貢献している医師が協力医となり、利用者全員のかかりつけ医となっている。24時間体制が整っており、緊急時も適切な対応がされている。週に1回訪問看護があり、利用者の健康管理を行うと共に、職員とも相談しやすい関係が築かれている。専門医療機関には職員が付き添って受診し、家族に報告がされている。また、訪問歯科治療も利用することができる。入院した場合でも職員が頻回に面会に行き、できる限りの協力をしながら病院との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎週(金)の訪問看護時に気づいたことなど伝えて指示をあおいでいます。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族と話し合ってきました。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、入居時に家族に説明を行っている。家族からは最期まで見てほしいという要望が強く出され、現在までも多くの看取り支援を行ってきた。職員は家族の揺れ動く気持ちを理解し、状態に応じて医師から丁寧な説明を受けて、共にチームで支援に取り組んでいる。最期となる時は家族も寝泊りができるよう配慮し、職員と家族に見送られて逝くことができるよう支援している。管理者は、すぐに駆けつけられる体制をとり、職員の不安が少なくなるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方に来てもらっています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署、保安設備の方の立会いのもと訓練を行っています。火災時の水の確保が問題に上がり地域の方々や推進委員さんの協力で消火栓が付きました。 (外部評価) 年に2回、消防署立会いのもと避難訓練を行っている。夜間想定訓練では運営推進会議のメンバーが利用者役となり、適切な避難誘導ができるか訓練を行った。交通の不便な地域であり、消防車が到着するまでに時間がかかることから、地元の消防団の協力は欠かせない。また、職員がいかに初期消火活動ができるかを認識することで職員の意識も高まっている。以前に運営推進会議で取り上げられた敷地内の消火栓も取り付けられた。管理者は今後も地域との協力関係を築きながら、利用者の安全を守りたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1 (外部評価) 地元の利用者が多く、愛称で呼ばれていたことから、入所しても変わらず馴染みの呼び方で声を掛けることが大切だと管理者は考えている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った声掛けをするよう努めている。また、入浴時に異性介助が苦手な利用者には、同性介助に変えるようにしている。自室の好きな利用者には、一人で過ごすことを尊重しながらも、利用者同士のふれあいも楽しめるよう見守りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 命令口調にならないよう「どうしますか？」と先ず利用者さんからの声を傾聴します。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全介助の方においては希望が聞けませんので1日1日しっかり食べしっかり出す、笑顔のあるケアをします。希望のある方には寄り添った介護を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 支援している。女性が多いので気になる方にはしっかりおしゃれをして輝いていただきたい。マニキュアをしたら大変喜ばれた。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方にはその人の力にあった作業をお願いしている。誤嚥の危険が高い方にはミキサーとろみ食を提供し安全を一番に考えています。	
			(外部評価) 管理栄養士が作成した献立表を参考にしながら、栄養バランスを大切に、専任の職員が調理をしている。食材は地域の商店から配達してもらい、旬の物を取り入れるよう心がけている。行事毎に特別メニューを提供したり、時には手作りおやつを作って利用者が楽しむことができるよう工夫をしている。調査日も、開設記念日のお寿司が用意され、管理者が利用者に感謝の言葉を掛けながら、共に楽しく食卓を囲んでいた。食後は、利用者が台拭きや食器拭きをするなど、出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った食事量、水分量を提供している。祭りの日、誕生日、季節の旬の物も大事にしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝と夕には介助にて口腔ケアを実施。声掛けに洗面所へ誘導。適宜支援します。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 日中は全員トイレでの排泄に努めています。 (一人は寝たきりで不可)</p> <p>(外部評価) 日中はトイレで排泄できるように支援を行っている。排泄チェック表を用いて一人ひとりのリズムやタイミングを把握し、声掛けや誘導を行っている。利用者の状態に合わせてオムツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなどの対応をしている。夜間オムツ交換を拒否する利用者に対し、尿取りパットの選択や声掛け方法などを職員全員で話し合い模索しながら支援している。トイレは3枚戸のレール式で、車いすでもゆったり使用できるようになっている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 個々に応じて内服の支援をしている。(Dr指示) 牛乳や他の飲み物で水分補給に努めています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 希望を受け入れている方は少ない。 便失禁時の入浴を優先しているが3/W以上は気持ちの良い時間を提供しています。</p> <p>(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。また、時間帯も決めておらず、利用者の好きな時間に入浴することができる。浴槽に浸かる利用者も多く、時には入浴剤を使用して気分転換を図る工夫をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫したり、同性介助をする等して無理強いをしないようにしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中でも横になりたい方は休んでもらう。夕食後の時間を大事にして穏やかに休んでもらうよう努めています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 努めています。症状の変化で薬が変わったときは特に連絡メモを徹底し全員周知に努めます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 支援が出来ています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩を取り入れ外の風にあたってもらいます。推進委員さんに協力してもらい遠出を行います。	
			(外部評価) 事業所の敷地は広く、日常的に外気浴を楽しみながら散歩をしている。以前は浜辺を1周する利用者もいたが、事業所までの坂道が長くて下りることが難しくなっている。近くに神社があり、日課のように参拝に行く利用者もいれば、銀行に行く利用者もいる。洋服を買いたいと希望する利用者には、職員が一緒に出掛け見守りながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 使える方には支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一番使用の多いトイレは常に清潔にし、臭いにも配慮している。廊下が広く長いのでイスを置き一休み出来るよう工夫しています。季節感も出すよう飾りつけもしますが家庭的を心掛けています。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、天井が吹き抜けになっており、木造の館内は落ち着いた雰囲気がある。窓も広く、明るい日差しが差し込み気持ちが良い。壁には紫陽花や向日葵など季節感ある飾りつけがされている。行事毎の利用者の写真も貼ってあり、利用者は立ち止まり微笑んで見ている。畳スペースでは海を眺めながらゆっくりくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂の椅子の配置では日頃の状態に合わせスタッフで話し合い、位置を変更します。椅子を数箇所置くことで一人になりたい人は利用できています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家族にお願いして、なるべく持って来て頂くようにしている。位牌や遺影を持ってこられている方もあり、スタッフも手を合致します。</p> <p>(外部評価) 部屋には作り付けの木製収納ベッド、整理タンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。シンプルな部屋もあれば、仏壇や位牌を持ち込み、じゅうたんを敷いて机や椅子を置いて自宅と変わらない部屋づくりをしている利用者もいる。カラオケの好きな利用者は部屋にカラオケセットを置いて楽しんでいる。個性ある部屋づくりがされ居心地よく生活できるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) パイアフリーの床で、手すりも完備されています。混乱や失敗があったときは、スタッフで話し合い不安材料をとりのぞくよう努めます。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成27年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>しっかり食べ、しっかり出す、1日1回は笑う。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は宇和海が一望できる高台に位置している。敷地は広く、緑の木々を間近に見ながら利用者はゆっくり生活を送ることができる。運営推進会議に多種多様な方の参加があり、事業所や利用者の理解を得られ協力関係が築かれている。地域医療に貢献している医師が協力医となり24時間体制の対応がされ、家族が希望する看取りにも力を入れ利用者や家族の安心につながっている。交通の不便な地域のため防災意識を常に持ち、利用者の安全を守るよう職員全員で取り組んでいる。管理者の方針を職員はしっかりと理解し、職員全員で統一した考えのもとケアに臨んでいる。開設9年、地域に根ざした事業所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 南ウイング

記入者(管理者)

氏名

土居京子・中平智子

評価完了日

平成27年5月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を頭に置き、人生の最終ステージをよりよい日々にする為、寄り添い生き生きと地域の一員として生活できるように支援していきます。	
			(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、職員全員で共有している。また、各ユニットで理念に沿った目標を立て、評価をしながらケアの実践につなげている。管理者は利用者に充実した日々を送ってほしいと願っており、職員に「利用者が生きた証を残すためには職員もプロとしての意識、責任を持ち、支援してほしい。」と伝えている。職員は、職員会などで言葉に出して確認し、意識向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域でのイベントなどに参加したり、保育所・小・中学校・婦人会の方々の訪問があり、交流を図っています。	
			(外部評価) 保育園児の訪問があり園児たちとのスキンシップで利用者の笑顔が生まれている。地元の小学校は合併して他の地区に移転したため今年から交流ができなくなったものの、調査日には中学生の体験学習の受け入れをしていた。祭りには神輿や五っ鹿おどりが訪れ、庭先で舞いを見ることが出来る。8月にある地区恒例の花火大会には、利用者全員で出掛ける予定である。花火当日は、地区住民が席の用意をしてくれる等協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 推進会議に来ていただく方々や、保育所・小・中学校・婦人会の訪問時に少しずつ理解して頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 明浜館の利用状態・行事報告等は毎回行っています。全員での外出や避難訓練には委員の方々にも協力していただき問題点などの意見が出たら次回の参考にしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者をはじめ家族、小学校校長、保育所所長、市議員、民生委員、老人クラブ会長、婦人会、市職員が毎回参加して開催されている。内容に応じ消防署、駐在所に呼びかけを行い、気持ちよく参加してもらっている。会議では事業所の報告、避難対策や訓練の説明、介護保険改正の説明等の他、さまざまな意見交換がされている。参加者の半数は事業所開設当初から参加しており、事業所の移り変わりを十分把握してくれている。話し合いの結果、昨年度消火栓の敷地内設置が実現した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議の時、西予市の高齢化率や介護保険利用状況など、西予市ならではの情報を頂き勉強させてもらっています。事故・クレーム等があったときは報告しています。	
			(外部評価) 運営推進会議には市の職員が参加しており、年に一度は介護保険制度についての説明を行っている。また利用者について相談にのってもらう等、連携を深めている。苦情等があった場合にも、ありのままの実情や対応報告を行っている。昨年は、社会福祉協議会主催の徘徊ネットワーク模擬訓練が、地区で一年をかけて準備され100人規模で行われた。管理者もアドバイザーとして参加するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ施錠しています。 職員会議などで話し合い、拘束をしないケアを心掛けています。	
			(外部評価) 以前、体動が多く転落の危険がある利用者に対し、家族の同意を得て柵を使用したことがある。現在も不安のある利用者には職員全員で原因を考えながら対策に取り組んでいる。中には、家族が赤外線センサーを取り付けた例もあるが、職員はそれらをうまく活用しながら見守りを重視した支援にあたっている。言葉の拘束においても、地域（浜の言葉）の方言がきつくならないよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議で日頃から思い当たるようなことがないか話し合い確認しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会が持てていません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時、説明して理解してもらった上で契約しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や電話で随時意見を伺い職員会議・推進会議・家族交流会で報告して意見を頂いています。 (外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加した時や、面会時にも話し合いを持つことで、思いや意見を聞くよう努めている。また年1回家族交流会を開いている。遠方の家族には毎月、管理者が手紙で状況を伝えたり、電話等もこまめに行い、意見を聞くよう努めている。利用者や家族が、意見や要望を言いやすい関係が築かれている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度、職員会を開きスタッフの意見を聞き、討論し運営を反映させています。 (外部評価) 管理者と職員は関係性が良く、職員は日頃より意見や提案を言いやすい環境にある。以前、夕食を利用者と一緒にとっていないことが議題になり、職員からの提案を受けて管理者自らも改善するなど、管理者は職員の意見に耳を傾けている。待遇改善に関しても、職員の要望を会社の代表に伝えることで、厚生行事として会社合同の社内旅行が実現した。また、研修を推奨し、受講費の補助や一部資格手当を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外の手当、休日手当、資格手当、夜勤手当等、向上心をもてるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ギリギリの人数で余裕なく研修には一人しか参加できていません。ケアに関して全員で意見を出し合い、一番寄り添ったケアができるよう努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 出来ていません。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 慣れない場所での利用者の不安を少しでも取り除けるような言葉かけを心掛け、安心感を持っていただけるように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の家族としっかりコミュニケーションをとり、よりよい支援ができるように心掛けています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の家族と話し合いたくさんの情報を得たことと職員同士で話し合い、よりよい支援ができる様に心がけています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る手伝いをしてもらいます。一緒に行ったり、手を差し伸べながら努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が来られたときは遠慮なく話しが出来る関係が築けるように努力しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お神楽見物など、地域行事を通じ馴染みの人達との交流を深めています。	
			(外部評価) 馴染みの床屋に行ったり、近所のスーパーに買い物に出掛けている。歌うのが好きな利用者はカラオケ大会に行ったり、同じ敷地内にあるデイサービスのカラオケに参加して楽しんでいる。地元ならではの盆踊り、お神楽、「潮ごり」の見物に毎年出かけ、懐かしい行事を思い出したり、受診の帰りに実家に立ち寄り知人と会って話すなど、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入り、コミュニケーションを行ったり余暇活動を通じて利用者同士がうまくつきあえるように努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されたり、他の施設に移られてもこまめに連絡したり、面会をしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活、交わる中で得られた訴えや気持ち、気付いたことを生かし穏やかに暮らしていける様に心掛けています。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で声を掛け、利用者の希望や意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者は、表情や行動から汲み取ったり、家族から情報を得たりしながら思いを把握するよう努めている。服用している薬を余分に持たせてほしいなど、要望に応えられない場合もあるが、利用者とは穏やかに話し合っただけで納得してもらおうよう努力している。飲酒の好きな利用者は自室にウォーターサーバーを置き、自由に飲酒を楽しんでおり、職員はそれを見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族との会話、入所時の情報提供、本人との日頃の会話等から把握するよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 自己のペース、状態に合わせて過ごせるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 6ヶ月ごとに見直しをしているが、体調に変化があった場合は、その都度、優先すべき課題は何か話し合って、その人に合ったプランを作成しています。</p> <p>(外部評価) 初回は介護支援専門員である管理者が作成するが、以降は担当者を中心に定期的にモニタリングを行い、職員全員で話し合って計画の見直しをしている。利用者の状態が変化した時はその都度臨機応変に対応している。管理者は、利用者の言葉を一言でも記録に残したいと考えており、職員は利用者の言葉を大切に受け止め、計画に反映できるよう努めている。</p>	利用者本位の介護計画が作成されているが、モニタリングも計画と同様大切なことである。定期的に担当者が行うモニタリングを記録に残すことで、支援内容の評価を職員が共有し、介護計画の見直しに生かすことを期待したい。そうすることで、今以上に管理者や職員の利用者を思う気持ちが反映できる介護計画になると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日報、バイタルチェック表で日々の様子を記録して、体調管理の把握の参考にしています。 また、個人記録では、その時々々の行動・言葉・精神状態を記録して、介護に活かしています。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出・受診・買い物など本人の希望や体調の変化、また家族の都合に合わせて行っています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 祭りや文化祭の情報を地域の方々からいただき参加しています。知人と出会い、会話がはずんだり、昔を思い出されたりと色々な形で楽しまれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診は本人やご家族が納得の上で行くようにしています。1/Wの訪問看護を利用しながらかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援しています。	
			(外部評価) 地元の地域医療に貢献している医師が協力医となり、利用者全員のかかりつけ医となっている。24時間体制が整っており、緊急時も適切な対応がされている。週に1回訪問看護があり、利用者の健康管理を行うと共に、職員とも相談しやすい関係が築かれている。専門医療機関には職員が付き添って受診し、家族に報告がされている。また、訪問歯科治療も利用することができる。入院した場合でも職員が頻回に面会に行き、できる限りの協力をしながら病院との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調変化や気づきがあった場合1/Wの訪問看護で相談し指示を受けています。 状態に応じて受診もしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は病院と情報交換を行い、退院後ホームとしてすべき介護の指導を受け、支援していけるようにしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームでの看取りを望む方が増えています。しかし終末期を迎えると家族の気持ちも変わるのでその都度話し合い、本人や家族にとってより良い支援ができるよう努めています。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、入居時に家族に説明を行っている。家族からは最期まで見てほしいという要望が強く出され、現在までにも多くの看取り支援を行ってきた。職員は家族の揺れ動く気持ちを理解し、状態に応じて医師から丁寧な説明を受けて、共にチームで支援に取り組んでいる。最期となる時は家族も寝泊りができるよう配慮し、職員と家族に見送られて逝くことができるよう支援している。管理者は、すぐに駆けつけられる体制をとり、職員の不安が少なくなるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員に来ていただき救急法を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防署立会いのもと避難訓練を実施しています。 (外部評価) 年に2回、消防署立会いのもと避難訓練を行っている。夜間想定 定の訓練では運営推進会議のメンバーが利用者役となり、適切な避難誘導ができるか訓練を行った。交通の不便な地域であり、消防車が到着するまでに時間がかかることから、地元の消防団の協力は欠かせない。また、職員がいかに初期消火活動ができるかを認識することで職員の意識も高まっている。以前に運営推進会議で取り上げられた敷地内の消火栓も取り付けられた。管理者は今後も地域との協力関係を築きながら、利用者の安全を守りたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 対応しています。 居室への入室の際、声掛けし、本人の了解を得ています。 (外部評価) 地元の利用者が多く、愛称で呼ばれていたことから、入所しても変わらず馴染みの呼び方で声を掛けることが大切だと管理者は考えている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った声掛けをするよう努めている。また、入浴時に異性介助が苦手な利用者には、同性介助に変えるようにしている。自室の好きな利用者には、一人で過ごすことを尊重しながらも、利用者同士のふれあいも楽しめるよう見守りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 働きかけています。 意向や思いを察知し、無理のない様支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添って、一人一人のペースにあった支援ができています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方に食器拭き等、片付けをお願いしています。	
			(外部評価) 管理栄養士が作成した献立表を参考にしながら、栄養バランスを大切に、専任の職員が調理をしている。食材は地域の商店から配達してもらい、旬の物を取り入れるよう心がけている。行事毎に特別メニューを提供したり、時には手作りおやつを作って利用者が楽しむことができるよう工夫をしている。調査日も、開設記念日のお寿司が用意され、管理者が利用者に感謝の言葉を掛けながら、共に楽しく食卓を囲んでいた。食後は、利用者が台拭きや食器拭きをするなど、出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人にあった食事形態でバランスの摂れたメニューを提供しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) その人の状態に合わせ、声掛けにて入居者自身にして頂き、細かい部分は介助しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 気持ちよくトイレで排泄して頂ける様、声掛けにて支援しています。紙パンツ・パット利用者あります。</p> <p>(外部評価) 日中はトイレで排泄できるように支援を行っている。排泄チェック表を用いて一人ひとりのリズムやタイミングを把握し、声掛けや誘導を行っている。利用者の状態に合わせオムツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなどの対応をしている。夜間オムツ交換を拒否する利用者に対し、尿取りパットの選択や声掛け方法などを職員全員で話し合い模索しながら支援している。トイレは3枚戸のレール式で、車いすでもゆったり使用できるようになっている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医師の処方に従った下剤の服用、水分補給を心がけ、野菜ジュースも取り入れています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴の声掛けをし希望を伺い介助します。気分良く入浴してもらう様、努めています。</p> <p>(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。また、時間帯も決めておらず、利用者の好きな時間に入浴することができる。浴槽に浸かる利用者も多く、時には入浴剤を使用して気分転換を図る工夫をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫したり、同性介助をする等して無理強いをしないようにしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 支援しています。転倒防止に努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬がない様、用法・用量は確認して支援できています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物に行ったり散歩に出かけたり、その人にあった楽しみ方の支援ができています。 日常生活においてもその人の力に合わせた役割分担ができていて生き生きとすすんでしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ほぼできています。 普段いけないところについては推進委員さんの協力を得て実施しています。 (外部評価) 事業所の敷地は広く、日常的に外気浴を楽しみながら散歩をしている。以前は浜辺を1周する利用者もいたが、事業所までの坂道が長くて下りることが難しくなっている。近くに神社があり、日課のように参拝に行く利用者もいれば、銀行に行く利用者もいる。洋服を買いたいと希望する利用者には、職員と一緒に出掛け見守りながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理の出来る人が少なく、家族の了解を得て、事務所で管理させてもらっています。自己管理のできるかたについては、買い物の支援もしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から電話されたり、家族や知人の誰とでもいつでも連絡がとれるよう支援できています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝の清掃にて、清潔を心掛けています。テーブルに季節に合った花を生けたり、壁面作りなど、安心して暮らせる環境作りをしています。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、天井が吹き抜けになっており、木造の館内は落ち着いた雰囲気がある。窓も広く、明るい日差しが差し込み気持ちが良い。壁には紫陽花や向日葵など季節感ある飾りつけがされている。行事毎の利用者の写真も貼ってあり、利用者は立ち止まり微笑んで見ている。畳スペースでは海を眺めながらゆっくりくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室でのんびりされる方もいれば、レクリエーションに参加されたり、他者との会話など、一人一人自由に過ごされています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具を持ってこられたり、ソファ・テレビなど、過ごしやすい配置を工夫しています。</p> <p>(外部評価) 部屋には作り付けの木製収納ベッド、整理タンス、洗面台、エアコンが備え付けとなっている。シンプルな部屋もあれば、仏壇や位牌を持ち込み、じゅうたんを敷いて机や椅子を置いて自宅と変わらない部屋づくりをしている利用者もいる。カラオケの好きな利用者は部屋にカラオケセットを置いて楽しんでいる。個性ある部屋づくりがされ居心地よく生活できるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内、バリアフリーになっていて、廊下もゆったり離合できます。台所からは、食堂全体を見る事ができ、見守りができ、安全に配慮できます。</p>	